

シラバス詳細照会

授業情報			
開講年度	2022年度	開講箇所	大学院会計研究科
科目名	生命保険の理論と経営		
担当教員	大塚 忠義／谷口 豊		
学期曜日時限	秋学期 金6時限		
科目区分	実務・応用科目(全般)	配当年次	1年以上
使用教室	11-901(指導室)	キャンパス	早稲田
科目キー	4801003829	科目クラスコード	01
授業で使用する言語	日本語		
授業方法区分	【対面】		
コース・コード	CMMR684L		
大分野名称	商学		
中分野名称	リスクマネジメント・保険		
小分野名称	その他		
レベル	修士レベル	授業形態	講義
単位数	2		

シラバス情報		最終更新日時: 2022/02/06 00:32:07						
授業概要	生命保険会社を経営する視点から、アクチュアリー専門知識のみならず実践的・応用的能力を磨くことを目的とする							
授業の到達目標	各種事例をとおして、アクチュアリーに求められる多角的な課題設定と、バランスの取れた課題解決の知見を得る							
事前・事後学習の内容	課題の提出を求めます。復習には30～60分かかる想定です。							
授業計画	<p>1: 第1回 オリエンテーション(講演)(プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン 代表取締役会長 倉重 光雄)</p> <p>2: 第2回 商品開発とプライシングⅠ: 保障性商品(森池)生命保険の基本知識と純保険料の作成方法について学ぶ</p> <p>3: 第3回 商品開発とプライシングⅡ: 貯蓄性商品(大谷)期間が長い保険契約の特徴と留意点について学ぶ</p> <p>4: 第4回 発生率の調査・算定(谷口)発生率作成のもととなる基礎データの種類、および作成方法について学ぶ</p> <p>5: 第5回 付加保険料と募集コスト(加藤) 予定事業費および募集コストの設定とその管理方法について学ぶ</p> <p>6: 第6回 資産運用とALM(金子)生命保険会社の資産運用の特徴と金利リスク管理における留意点について学ぶ</p> <p>7: 第7回 商品別収益検証(谷口)商品別収益検証の経験をおとして実務での課題や解決方法について学ぶ</p> <p>8: 第8回 決算における保険負債の算定(木村)生命保険会計の特徴から日本の標準責任準備金制度の意義について学ぶ</p> <p>9: 第9回 区分経理利源分析(門井)区分経理の活用方法および実例をおとした在り方について学ぶ</p> <p>10: 第10回 リスクマネジメントと健全性指標(河原)保険会社経営の大所高所からリスク管理の在り方について学ぶ</p> <p>11: 第11回 経済価値に基づく負債と収益(谷口)法定会計と経済価値との負債評価、収益構造の相違点について確認し、実務における留意点について学ぶ</p> <p>12: 第12回 米国の会計基準(Jeffrey Simone)日本と米国の責任準備金評価の違いと、米国の会計基準の特徴について学ぶ</p> <p>13: 第13回 再保険(佐藤)生命保険会社の課題に対し再保険を活用した解決策について学ぶ</p> <p>14: 第14回 コンプライアンス遵守(吉田)生命保険会社のコンプライアンスについて学ぶ</p> <p>15: 第15回 計理人の意見書、ORSA、講義まとめ(蕪木)計理人の意見書とORSAの概要を学び、アクチュアリーの役割について総括する</p>							
教科書	特に指定しません。講義資料をMoodleに掲示しますのでダウンロードしてください							
参考文献	『保険1(生命保険)』『保険2(生命保険)』ともに日本アクチュアリー会							
成績評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポート: 70%</td> <td>講義内容を踏まえた課題(3回)に対するレポートを提出していただきます</td> </tr> <tr> <td>平常点評価: 30%</td> <td>講師からの質問に対する回答など、講義への積極的な参加を評価の対象とします</td> </tr> </tbody> </table>		割合	評価基準	レポート: 70%	講義内容を踏まえた課題(3回)に対するレポートを提出していただきます	平常点評価: 30%	講師からの質問に対する回答など、講義への積極的な参加を評価の対象とします
割合	評価基準							
レポート: 70%	講義内容を踏まえた課題(3回)に対するレポートを提出していただきます							
平常点評価: 30%	講師からの質問に対する回答など、講義への積極的な参加を評価の対象とします							
備考・関連URL	保険・保険数学に関する基本的な知識を有していること、または「生命保険の理論と実務」を履修していること							